

実物を
見てみよう!

モデルハウス 見学の

ススメ

◆モデルハウス

実際の住宅を再現した展示場住宅のこと。住宅購入希望者は、モデルハウス(住宅展示場)の中に入ることによって、その物件を詳しく見ることができ、住むイメージを具体的にイメージし、購入した後の生活をイメージし、購入の意思決定に繋がります。

モデルハウスはどこにある?

住宅
展示場

最新住宅を一度に見ることができ、お気に入りの住宅は、本物同様の作りになっており、高いクオリティの事を見ることが出来ます。また、まとまった場所に複数展示されているので、一度にたくさんのお家を見ることができ、効率よく時間をかけてお家の見直しで見て回る事ができます。

オープン
ハウス

売主の協力を得て一定期間留守にしてもらい、その間不動産会社が建物の鍵を預かって、購入希望者に建物内部を解放し、納得のいくまで詳しく見ることが出来る「現地販売会」を開催することも、自由に中に入って、設備やレイアウトを見ながら、目的の物件(一戸建てまたはマンション)の立地条件や住み心地などを確認することができます。

スタッフにこれを聞いてみよう!

初心者編

見学の際に大事な心構えや、聞いておくと良いコトを住まいのエキスパートに伺いました。



プロフィール

ゆとりクリエイティブ
DE-STYL・U(デ・スタイル・ユー)
代表 歌川 えつこ氏

一般社団法人十人十色の住みづくり推進会理事、ルームスタイリスト・プロ/内PO法人ハウスキーピング協会1級認定講師/インテリアコーディネーター/建築士/管理収納アドバイザー1級/リフォームスタイリスト/宅地建物取引主任者/他資格多数。



プロフィール

一般社団法人
日本住宅技術研究協議会
理事 久保田 淳哉氏
一級建築士

◎動線と収納のポイント

どのような生活動線をイメージして作られた間取りか聞いてみましょう。特に家事動線は「心地よい暮らし」に大きく影響します。どれほど考え提案がされているかじっくり話を聞いてみましょう。収納は多さではなく必ず内部(奥行、棚板は何段? 固定棚or可動棚)も確認しておきましょう。収納率(収納面積の床面積に対する割合)より収納効率(いかに出し入れし易く管理しやすいか)がポイントですよ。

◎仕様やメンテナンス箇所の確認を

オプション仕様が付くつかないだけでなく、グレードアップ仕様も選択肢の一つ。その場合どう機能が変わるのかもしっかり確認しておきましょう。また心地よく暮らすにはメンテナンスも大事、不明な点は確認しておきましょう。(例:換気扇のお掃除は? 浄水器のフィルターの交換は?)

◎隠せず体感、隠せず聞いてみる

建物内で方位と光の取り入れ方を体感しておくことは別物件との比較の際ヒントになります。建売モデルやマンションの棟内モデルは実際に体感できます。時間を変えて何度か足を運んでみると良いですね。建物だけでなく周りの環境も展示場の方に尋ねてみると共に自身でも確認してみましょう。(例:ベビーカーを引いていける距離に公園があるか。小さな子どもが安心して遊べるか、どんな遊具があるか、など)



◎見学の際の重要なポイント

住まいとして安心して暮らしていける基本性能がきちんとあるか・きちんとつくられる会社かを見極める事が大切です。

◎具体的な提案を示してくれる会社をえらびましょう

はじめての住宅選びは、どうしても見える部分のインテリアや最新の設備に目が行きがち。見学会などに行った際には、「暖かくて快適ですよ」というイメージ説明だけではなく、「家中の室温20℃で設定で、暖房費は0円位で暮らせます」といった具体的な暮らしの姿を提案してくれる会社を選びましょう。

◎隠れている箇所をオープンにしてくれる会社をえらびましょう

施工中の構造見学会や新築工見学に足を運ぶのもお勧めです。いずれ隠れてしまう箇所もきちんとオープンに出来る建築会社は安心といえます。最新の設備も大事ですが、新築や気密工事をしっかりしている会社を選びましょう。

住宅はほとんどの人にとって一生に一度の買い物。「せっかくだから…」とあれもこれもと目移りして悩んでしまうものです。好みのスタイルだからと買って生活してみると、寒くて布団から出られない、なんてことも。暖房費もすごくかかってしまい、建てて数年で新築リフォームをした残念な例も。本当に重視したいことは何かをきちんと整理して、優先順位を明確にした上で、余裕をもって色々な見学会へ足を運んでみましょう。